

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立西陶器小学校
校長 柏原 秀和

中学校区におけるめざす子ども像
 ○将来をみすえ、自ら学習できる子 ○自分のよさを知り、人とつながり協働する子 ○ゆめの実現に向かって粘り強く取り組み、活力ある生活を送れる

令和6年度 重点目標
 学校教育目標：「一人ひとりが達成感を味わい、笑顔と夢があふれる西陶器っ子」
 めざす子ども像：1 自分で考え実行力のある子ども 2 自分のよさを知り、人を認め、人とつながり協働する子ども 3 夢の実現に向けて挑戦する子ども
 組織上の重点目標：「子どもが安心と居場所を感じる学校づくり」～道徳を要とした児童理解と生徒指導対応力の向上～

<p>「確かな学び」の現状 全国学調より、「先生はわかるまで教えてくれる」や「国語や算数の授業の内容はわかる」の項目で平均以上だった。しかし、正答率では平均を下回る問題が多かった。このことより、授業の中で児童は一定の理解はしているが、深い理解になっていないため、期間が経つと忘れてしまっていると考えられる。「自分と違う意見について考えるのは楽しい」や「地域や社会のために何かしたい」、「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」の項目で平均を下回った。また国語や算数の調査から「何を聞かれている問題なのかを理解する力」や「資料から情報を読み取ったり必要なものを選び取ったりする力」に課題があった。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 全国学調より、「自分にはよいところがある」や「進んで助ける」、「人の役に立つ人間になりたい」の項目で、平均を上回っている。しかし、「計画を立てて勉強する」や「読書は好きか」、「読書時間」の項目では平均より下回った。自尊心や道徳心は育成できているが、家庭学習から学びに向かう自立性の育成が必要だと考えられる。また、新体力テストの全国平均と比べると、ソフトボール投げは平均を上回っているが、シャトルランと立ち幅跳びは平均を大きく下回る。普段の休み時間でドッチボールを通じて、遠投力については、持久力・瞬発力に大きな課題が残る。授業において技能のみでなく、運動量も確保された授業展開が必要である。</p>
---	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	総合的な学力向上	考え抜く児童の育成	道徳科の研究授業と、人権の公開授業を各学年1本ずつ、専科の授業や支援学級の授業も含め、全職員が公開授業を実施し、授業力向上に努める。	年間公開授業12回以上	実践報告 自己評価	年度末	○ 各学年の研究授業は計画通りに進んでいる。事前検討会も行い、活発な討議になるよう進めている。	○ 研究授業や討議会を通して、全職員が自身の授業改善に向き合 うことができた。 87%の児童が自分の考えを書いたり伝えたりすることができ ており、よく考え、しっかり話を聞いて勉強していると答え た児童は97%となった。次年度も児童の思考力向上につな がるよう、授業研究を進めていく。 理科の授業では89%の児童が自分で予想や考察を考えた と答え、多くの児童が自分なりの考えを持つことができ ている。 どの学年でも児童の実態に合わせたICTの活用を行っており 、90%の児童がタブレットを使うことで勉強がしやすいと感 じている。家庭学習は毎月の代表ノートが児童の学習意欲に繋 がっているが、自分で内容を考え計画を立てることに対しては 難しさを感じている児童も多く、目標の85%には到達しな かった。	○ 考え抜く授業の実践を推進できた ことは評価できる。実際に人前で自 分の考えを伝えるためには、自分の 考えをしっかりと持たなければいけ ない。言葉にできない場合は考えるこ とをきらめる子もいると思う。自 分で考える機会、ICTの有効活用、 友だちとの交流を通して、しっかり 考えを整理できるようになってほ しい。この1年を土台にして次年度 の聴きあい、語り合う児童の育成を めざしてほしい。
			考える時間や交流する時間を多く取り入れるなど、考え抜く力をつけることを意識した授業に取り組み、子どもの思考力向上に努める。	「見ア」自分の考えを書いたり、伝えたりしている。」肯定意見80%	アンケート	年度末	○ 理科の授業では予想や考察をする時間を十分取り、自分で考えられるようにしている。		
			高学年専科指導(理科)を4～6年で系統的に実施し、児童が自分なりの考えを持てるようにする。	「見ア」理科の授業で自分で考えた予想や考察を書いている」肯定意見80%	アンケート	年度末	○ タブレットの活用は高学年ではまとめる活動まで することができている。低学年では調べる活動やま とめる活動は難しく、発達段階に応じた活用をして いる。		
	学びに向かう力・人間性の向上	ICT活用によって、新たな見方・考え方に気づき、自分の考えをより深める児童を育てる。	「見ア」タブレットを使って記録する・調べる・まとめる活動をしている。」肯定意見80%	アンケート	年度末	△			
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	道徳教育と生徒指導の充実	道徳教育・道徳の時間の充実を図り、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	「見ア」人の気持ちを考えたり、人と助け合ったりすることは大切だと思う」肯定意見80%	アンケート	年度末	○ 道徳性を養うため、ねらいを意識して授業づくりに取り組んでいる。	○ 96%が肯定意見だった。引き続き来年度も道徳性を養うた め、ねらいを意識した授業づくりに取り組んでいく。 肯定意見89%という結果から、いいところ見つけの活動を通 して自分の良さを知る機会が持てたと言える。今後もこの活動 を続けたり、各学級でも自尊感情が高まるような声かけをし たりしていきたい。 98%の肯定回答となった。発達段階にあったいじめ対策授業 や、毎月実施のいじめアンケートによる迅速ないじめ対応を今 後も継続して行い、児童が安心できる学校を目指していく。	
			いいところみつけを通して、児童の自尊感情を高める。	「見ア」自分には良いところがあると思いますか」肯定意見80%	アンケート	年度末	○ いいところ見つけを毎月行い、放送で知らせるこ とで、じぶんのいいところを見つめ直している。		
			児童のいじめについての理解を深め、いじめを許さない態度を育む。またいじめ問題に対し迅速かつ組織的な対応をする日頃から児童の実態を全職員で共有する	「見ア」いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」肯定意見100%	アンケート	年度末	○ 各学年でのいじめ事案、いじめと疑われる事案に対 して、即座に対応し、対策会議・SSWとの連絡を実 施している。夏季研修を受けて、各学年「いじめ対 策授業」を実施している最中。		
	体力の向上	心身ともに健全な子どもの育成	早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣の定着を図る。	「見ア」早寝・早起きをしている」「朝ごはんを食べて登校している」肯定意見80%	アンケート	年度末	○ 早寝・早起きは、掲示物を作成し啓発を行った。朝 ごはんは、3学期に掲示物を作成し掲示する。		○ 体育の授業では、各学年で運動量を確保する授業を実施した。 また、的当てや幅跳び、なわとびなどの取組を実施し、たく さんの児童が運動する機会を設けた。アンケートの肯定意見は8 5%で、目標値を達成した。
体育の授業や体育行事の充実を図り、十分な運動量を確保する。			「見ア」体育の授業や休み時間などで体を動かすことが好き」肯定意見80%	アンケート	年度末	○ 運動好きの児童を増やすための取組を実施してい る。体育委員会での取組(まとあて・幅跳び)を実 施し、なわとびの取組も実施予定である。			
開かれた教育	期待と信頼	公開・評価・協働	学校ホームページ、校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校ホームページにおいて、昨年度のアクセス数を上回る。	アクセス数	年度末	○ 12月中旬時点で昨年度のアクセス数を上回ってい る。	○ 学校教育活動についてHPで発信し、保護者、地域の方からの 関心が高まった。また、昨年度のアクセス数を上回ることがで きた。こ幼小の交流について公開授業を行い、連携の研究を進 めることができた。	
			こ幼小の交流、小中一貫教育の推進	こ幼小中間で研究授業や参観授業の実施を行い効果的な交流の検証	自己評価 実践報告	年度末	○ こども園と共に保育案検討を行い10月に交流実践保 育を行った。2月実施に向け準備中。		

校長より (年度末)
 重点目標への取り組みには学校全体としての組織対応で成果を上げることはできた。次年度、道徳を中心とした授業改善がしっかり実施できるように教材研究の時間確保に向けて校時表の改定を行う。また、いじめ未然防止・初期対応のより深い組織対応を研修や実践を継続して行う。この2点に取り組み成果を出すことで、子どもが安心と居場所を感じる学校づくりの実現を図りたい。また、地域とも「昔遊び交流会」「防災教育」等の連携を行い、地域で生きていく児童の育成を進めていく。

学校関係者評価者から (年度末)
 本年度の学校教育活動への取り組みは一定の評価ができる。2カ年計画で取り組んでいる重点目標の取り組みを次年度も成果を出してほしい。また、防災を中心とした地域連携でも学校を支援していきたい。